



るうてる



2025 年
8 月
No.932

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631
■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円（郵税を含む）
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「もう少し、できることもあるのでは」

日本福音ルーテル稔台教会・小岩教会牧師 内藤新吾

「主は多くの民の争いを裁きはるか遠くまでも、強い国々を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げずもはや戦うことを学ばない。」（ミカ書4：3）

第2次世界大戦後80年、広島と長崎への原爆投下より80年の8月を迎えています。世界に戦争や紛争、また核の脅威が続いていることは、本当に嘆かわしいことです。人類は何と愚かな存在かと、つくづく思われます。しかし、それでも私たちは、神様の願われている世界へと、歩みを進めていかなければなりません。

るうてる8月号巻頭説教に、平和の主日の旧約聖書から二つの節を記させていただきました。ミカ書4章3節です。日課は1節と5節ですが、3節が皆さん



「永遠の平和の上に Over Eternal Peace」
イサーク・レヴィタン作 1894年

にもピンとくるのではないのでしょうか。これはイザヤ書2章4節と同じ内容です。もろもろの国と民に対する主の教えは、戦争をするなということです。戦争は主の喜ばれるところで

はないということです。簡単明瞭です。どんなに戦争について正当な理由付けをしようと、そんなものは通じません。戦争は、もし起きてしまっても、即座にすべきことは、関係国すべてが自分たちは愚かであつたことをざんげすべきだということ。そして、一刻も早く戦争を止めるための最善の努力を、解決に

至るまで、世界も共にすべきだということです。私たちの国は先の大戦にて特に、大変深い罪を犯しました。国の過ちは国民一人一人の過ちであり、キリスト者の責任も重いのです。だからこそ私たちは「宣教百年」のとき「信仰宣言」を採択し（1993年8月）、次のように告白したのではないのでしょうか。

「主はこの世界の創造主であり、歴史の支配者です。この主が、私たちにキリスト者としての使命をお与えになりました。しかし、今、近代日本の百年余に重なる私たちの教会の百年の歴史を省みると、主のみ言葉に聴き続けなかつたことを、深い痛みの中でざんげします。とくに、第二次世界大戦を含め十五年戦争のあいだ、私たちの教会は神のみを神とする十戒の第一戒を守り抜くことができず、また平和を実現するようにとの主の戒めを生きたことができませんでした。（中略）行なうべきではなかつたことを行なつてしまった罪と、行なうべきだつたことを行なわなかつた罪とを、

を行なわなかつた罪とを、神と隣人の前に、とりわけアジアの人々の前に犯しました。（中略）私たちはこれら全てを主の面前に心よりざんげし、主と隣人の前に赦しを願います。」

そして、宣言の最後の段落で、次のように決意表明しました。

「私たちは、教会に対する責任のみならず、神の国を地上にもたらすためにこの世界に対してもとりなしの祈りと働きを神から託されています。すなわち、神によつて与えられたいのちを守ることに、正義と平和の実現、全ての人々の和解、全ての被造物が創造の目的にかなつて完成されることのために努力します。」

私は、この団体が、口だけではなく、信仰の表出である行いにおいても、証の立てられることを願います。聖書には「あなたがたはその実で彼らを見分ける」（マタイによる福音書7章20節）とあります。また、平和の主日の福音書日課でも主イエスは、「わたしがあるがたを愛したように」

（ヨハネによる福音書15章12節）と言われていますが、恵みとまことに満ちた主イエスに倣う歩みを、私たちは真剣に求めていく必要があるように感じます。毎週、ざんげ告白は聞きませんが、組織全体としての悔い改めにふさわしい実はあるのでしょうか。そうは思えません。また、たまに全国総会で社会的声明の採択もありますが、どれだけの具体的取り組みがされたのでしょうか。皆組織維持で終始です。主はそれでも私たちを受け止めてくださっています。もう少し、主の喜ばれることもできるのではないのでしょうか。

世界で起きている悲劇に対しても、私たちは主が決して喜ばれていないと感じることについては、もつと強く、そして何度も、声を上げていくことが大事ではないでしょうか。他にも同様に、期待されていることがたくさんあります。虐げられた人を解放する主の働きに連なることは、実は私たち自身をも解放していくのです。主と共に行きましょう。



命のことば



伊藤早奈
⑥ いつも共に

「神は言われた。『わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。』（出エジプト記3：12）」

「よく何年も書けますね、そんなに書くことありますか？」

「こう聞かれた時すぐに私は答えました。『あるんですよ。』

これはどうしてだろうと考えていたら、急に久しぶりな方から手紙がきたり、読んだ文章から語られたり。不思議ですよね。あれ。似たようなことを何年前に言われたことがあつたような気がするな。あの時は礼拝で語らせて頂く説教を読まれた方からの反応でした。でも、もしお聞きする機会があつたとしても、あなたから牧師に「先生、毎週、毎週よくネタがつかまいませんね。なんてお聞きしませんよね。そうです。いつもいつも語られるのです。私はよく「神様は

あなたと共にいられます。同じように私とも神様は共にいられます。」と語ります。

でも、なんとなく「目には見えないかたちでいつも神様に包まれているのかな」と思っていました。神様が共にいられるから、気づきが与えられます。神様が共にいてくださるから、語ることができるよう。これらの文章も、礼拝の説教も、うまく言えませんが「神様があなたと共にいられる」という一つのかたちなのではないでしょうか。もちろんこの文章を読まれているあなたも。

礼拝で説教を聞いておられるあなたとも、神様は共にいられます。たとえ、お一人お一人が違うように気づかれたとしても、神様は同じです。同じ神様があなたと共にいられるのです。み言葉につまづいたら心で祈ってみてください。必ずあなたと共にいられる神様が語られます。あなたに。



リレーコラム

「全国の教会・施設から」②7



■日本福音ルーテル
都南教会

大久保延子
(日本福音ルーテル
都南教会信徒)

都南教会は1942年
平井清牧師の下、宣教を
開始しました。終戦後、地
域に幼稚園という地域
住民の願いと、当時牧師
であった田坂惇巳牧師の
キリスト教保育を地域の
子どもたちという祈り
が重なり、1956年都
南ルーテル幼稚園(未認
可)が開設されました。1
995年に閉園されるま
で、地域の幼稚園として
小さいながらも多くの卒
園生を送り出しました。
今でも幼稚園の卒園
生が教会に連なってお
り、その思いは神様が今
なおつないでくださって



2022年10月には
宣教80周年を迎え、感謝
の記念礼拝をもちまし
た。神様に見守られ、イエ
ス・キリストに繋がり、そ
れぞれのよき実を結ぶこ
とがなかった幸いを喜び
合いました。これまでの
恵みに感謝し、これから
も神様のもと一つとなり、
励まし合いながら、先達
の思いを受け継いでこの
地で福音の宣教をしてい
きたいと思っています。

■キリスト教児童福祉会
児童養護施設 広安愛児園

小澄康彦
(広安愛児園園長)

立77年を迎えました。9
年前の熊本地震では、広
域避難所として当園の敷
地を開放し、避難してき
た方々に対する支援を行
いながら、施設で生活す
る子どもたちとともに大
きな困難を乗り越えまし
た。建物は鉄筋コンクリ
ート造ですから、現在もそ
のまま使用することができ
ています。

都南教会は聖歌隊の
活動も盛んです。隊員は
教会のさまざまな役割
も兼ねているため、わず
かな時間でハードな練習
をしています。昨年から
キッズの聖歌隊と一緒に
賛美するようにになり、
教会の喜びとなっています。
教会の入り口にはぶど
うの木があり、フェンス沿
いにその枝を伸ばし、豊
かな実を付けます。教会
員の楽しみの一つです。

えは、先生が過された幼
少期のクリスチャンホーム
としての心温まる家族体
験に基づいています。

本体施設には4つの小
舎があり、これに加えて地
域小規模児童養護施設
(分園型小規模グループ
ケア)として、近くに3つの
ホームも運営しています。

施設に入所する子ども
たちの中には、深刻な虐
待を受けたことによるト
ラウマ(心的外傷)を抱え
た子どもや、虐待によつて
発達に影響を及ぼしてし
まうケースも少なくあり
ません。専門的な病院や
相談機関などとも連携
し、支援にあたっています。

対人援助技術やケース
ワーク等の専門的知識を
得ることは大変重要なこ
とですが、一方で、そうい
った知識だけではどうにも
ならないことを支援の中



改 宣 教
宣 室

「過ちは繰り返す
ませぬから」

永吉秀人総会議長

戦後80年を迎えまし
た。戦争により失われた
人命を覚え、神のみが与

で感じることは少なくあ
りません。生きること
に困難を抱えた子ども
たちの支援を、人間の知識
だけで乗り越えることは
不可能です。

当園に設置されている
委員会のひとつである「聖
書の学び委員会」は、それ
こそ人知では到底計り知
れない神の計画、そして恵
みと平安とがあることを
思い出す手助けを担って
いるように思います。

支援の行詰り、職員の
担い手の不足、想定でき
ない突発的な事案等々。
子どもたちだけでなく、
施設も多くの困難を抱え
ていることはまさしく「と
もに歩んでいる」ことの証
ではないでしょうか。

当園への温かいご支援
に感謝しますとともに、
引き続き祈りに加えてい
ただきます様お願いいた
します。

え得る魂の平安と遺族へ
の慰めをお祈り致します。
本文の表題とした

「過ちは繰り返すませぬ
から」とは、1952年に
広島平和公園の建設に
伴って作られた原爆慰霊
碑に刻まれた「安らかに
眠つて下さい。過ちは繰
返しませぬから」の一節で
す。その歴史を垣間見る
と、碑文にある「過ちは繰
り返しませぬから」の主語
が誰であるのかが長く議
論されてきたことを知ら
れます。当時、広島市長
からの依頼で碑文を作成
したのは広島大学英文学
教授の雑賀忠義氏であつ
たといひます。雑賀教授
は、その英文の主語として
「私たち」を用いておられ
すなわち「私たち世界の
人々」のこととして碑文に
は高い理想が込められて
いることを知りました。

さて、日本福音ルーテ
ル教会では、1985年
7月より韓国ルーテル教
会との宣教協力検討が
始められ、議長会を通し
て日本におけるルーテル
四教団での取り組みとし
て呼びかけられ、その結
実として1989年4月
18日にルーテル四教団で
の韓国ルーテル教会への
公式訪問が実現しまし
た。その訪韓の際、京畿道
水原にある提岩里(チェ
アムリ)の教会を訪問し
たのです。

1919年4月15日、
時は第1次世界大戦後
まもなく、チェアム教会
で事件が起こります。当
時、日本統治下の朝鮮半
島全土では朝鮮人による
三・一独立運動が起こつて
おり、日本軍・警察官らが
独立運動の首謀者とみ
られる23名をチェアム教
会に閉じ込めて射殺し、
民家も含め焼き払ったと
いう事件。その真偽は、2
007年に当時の朝鮮
軍司令官であった宇都宮
太郎日記が岩波書店か
ら刊行され、事件の隠蔽
と矮小化の事実が明る
みに出ています。

1989年4月のチェ
アム教会訪問時、私たち
一行は1919年4月の
チェアム教会焼き討ち事
件からの生き証人である
チョン・ドンネ(田同禮)さ
んと面会し、二人握手
を交わしました。ドンネ
さんの手からは、「してしま
うた者へのゆるしのあたた
かみ」をいただきました。私
から応え得る言葉は「二つ
のみ」(過ちは繰り返しま
せん)以外にはあり得ま
せんでした。



1989年訪韓団



チェアム教会



チョン・ドンネさん

アメリカ福音ルーテル教会 サウスカロライナシノッド訪問報告

河田礼生
(日本福音ルーテル恵み
野教会・函館教会牧師)

6月11日〜16日の日
程でアメリカ福音ルーテ
ル教会(ELCA)のサウ
スカロライナシノッド(日
本でいう教区)を訪問し
ました。今回の訪問はシ
ノッドアセンブリー(教区
総会)と、その中で行われ
たサウスカロライナシノ
ッドの福音宣教200周
年の記念式典への招待を
受けてのことです。訪問
団は滝田浩之牧師を団
長として、九州教区から
池谷孝史牧師とネルソン
・デイビット牧師、東海教
区から笠井春子牧師、東
教区から秋久潤牧師と
信徒として和田めぐみさ
ん、北海道特別教区から
河田礼生の7名でした。

サウスカロライナシノ
ッドは、日本におけるルー
テル教会伝道の始まりを
担った宣教師である、
シェラーやピーリーを
派遣したアメリカ南部一
致シノッドの流れをく
んでおり、私たちの原点の
ひとつです。現在でも協
力して宣教を行っており
ます。

現地では、トム・カッセ
ム牧師と日本福音ルーテ
ル大江教会出身で、現在

はELCAの牧師である
安川美歩牧師をリー
ダーとしたタスクフォー
スの方々が迎え入れてく
ださいました。宿泊場所
から懇談会、観光まで
コーディネートしてく
ださり、アメリカが初めて
の私でも安心して過す
ことができました。

今回のアセンブリーの
主題は「Our Heritage Our Hope」
(私たちの遺産、私たちの
希望)であり、歴史を通し
て、今を見つめ、未来を見
据えていくことが繰り返
し強調されていました。
私たちの教会も5月に行
われた第31回定期総会の
議長報告で「宣教におい
て困難ではない時代はな
かった」ことを確認いたし
ましたが、サウスカロライ
ナシノッドでも多くの困
難や教会自らの欠けを
抱えながらも、聖霊に助
けられてこれまでの宣教
が守られてきたのだか
ら、これからも聖霊の導
きに委ねていくのだとお
話されていました。

抱えている宣教の課題
は似たようなものもあれ
ば、そうではないものもあ
るけれども、向き合い方
は同じです。課題にぶつ
かった時には、主に委ね
祈りのうちに取り組んで
いこうと私自身も奮起

させられる機会となりま
した。
アセンブリーを終えて
15日(日)の主日にはチャー
ルストンにあるセント・ジョ
ンズルーテル教会へ伺い
ました。セント・ジョンズ
教会は日本ヘンリー
を派遣した教会です。歴
史が長くELCAのなか
でも最初から用いられ

ていたようです。国を越え
て一つの教会として祈り、
賛美できる恵み深い時間
を過ごしました。礼拝後
には、食事会も開いてく
ださり、ごちそうを囲ん
での良い交わりもできま
した。

他にも壮大な開会礼
拝、アセンブリーの副議
長選挙で感じた教員員の

熱心さ、プランテーション
農園の見学、懇談会で議
長補佐の牧師とオンライ
ンの用い方についてお話し
したことなど、書きつく
せないほどの経験をして
まいりました。今後もお
互いのために祈り、励ま
しあう交わりを保ってい
きたいと感じます。

サウスカロライナシノッド議長やタスクフォースのメンバーと



セント・ジョンズルーテル教会で挨拶する
滝田浩之牧師(右)と通訳のネルソン・デイビット牧師(中央)



世界の 教会の声

浅野直樹 Sr.
(日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師
・世界宣教主事)

ニケア公会議 1700年記念に向けて

西暦325年、キリス
ト教会史上最初の世界
教会会議がニケアで開催
され、ニケア信条の原型
が誕生しました。今年2
025年は1700年
目にあたり、キリスト教
信仰の根幹を支える三
位一体を告白するニケア
信条に、今新たな関心が
集まっています。現代の私
たちが信仰告白をするこ
との意味について礼拝学
が専門のランゲ教授が語
るメッセージをかいつま
んで紹介します。

WCC(世界教会協議
会)とカトリック教会が
中心となつて毎年発行す
る「キリスト教一致祈祷
週間」が選んだ2025
年のテーマは、「あなたは
このことを信じますか」
(ヨハネによる福音書11
章26節)です。これはイエ
スがマルタに投げかけた
問いです。委員会は次の
ように説明します。「この
イエスのみことばが心に
響いたとき、第一世代の
キリスト者たちは無関心
に聞き流すことはできま
せんでした」。この指摘は

現代の私たちにも当ては
まりませんか？全人類と
すべての被造物のいのち
のために、神が計画なさつ
たみ旨を知っておきなが
ら、黙つていられるでし
うか。「わたしは復活であ
り、命である」。イエスはそ
う仰つたのです。

マルタへの問いかけ「あ
なたはこのことを信じま
すか」は、私たちへの問い
でもあります。そもそも
これは個人的な信仰応
答ですが、同時に共同的
であり信仰告白として典
礼の一部なのです。私たち
は信仰の共同体として、
共にニケア(コンスタン
ティノポリス)信条を「私
たちは信じます」と告白
するのです。

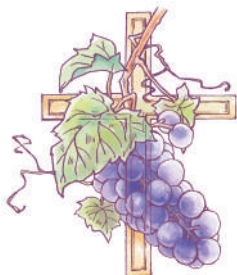
神が命を与えその源で
あり、死に勝利なさつた
ことを私たちは信じてい
ます。今日死は、単に地上
での肉体の滅びというだ
けでなく、さまざまなか
たちをとつています。命を
粗末に扱う戦争という傲
慢、暴力による苦痛、移
民や難民に向けられる敵
意、一部の人の成功と富の
蓄積から生じる格差、う
そ、間違つた生業、隣人へ
の猜疑心などとなつて死
が見られます。

「あなたはこのことを
信じますか」。ラザロの死
に際してイエスが投げか
けたこの問いが、信仰告
白を呼び起こします。ア

ウグスブルグ信仰告白も
その一つで、ニケア信条な
どの古代信条を踏まえて
「私たちは信じます」と告
白します。

「あなたはこのことを
信じますか」。イエスは、現
代の死と向き合う私たち
に問いかけています。信仰
を告白するとは、今日、人
間社会にまん延するさま
ざまな死を、名を挙げて
指摘することでもありま
す。死と直面すること、そ
して福音を指し示すこと
です。アウグスブルグ信仰
告白が示す如く、「福音が
純粹に説教され、聖礼典
が福音に従つて正しく執
行される」こと。福音のみ
を指し示し、他に何も付
け足さないこと。信仰を
告白するとは、人間社会
がすぐにつくりたがる障
壁や監獄を取り壊し、人
類とすべての創造を解放
へと導く神のわざを指し
示すことなのです。

[https://lutheranworld.org/
blog/week-prayer-journe
y-sources-our-faith](https://lutheranworld.org/blog/week-prayer-journeys-sources-our-faith)



ルーテル世界連盟(LWF)
世界宣教協議会報告

宮本新
(日本ルーテル神学校校長)

ルーテル世界連盟(LWF)は、6月18日〜21日に世界宣教協議会(Global Mission Consultation Taiwan 2025)を台湾にある信義神学院(台湾ルーテル神学校)を会場に開催した。四つの地域(アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ)から30名ほどが参加し、次の会期(2030年)の宣教文書(教会の宣教方策などの基礎資料になる文書)の策定作業に着手した。

宣教のふり返りは広大な海を眺めることに似ている。一見するとすべて

が、多様な教会を背にして一体感をもって取り組むためにはその進め方と観点整理に多くを費やしたに違いない。

とりわけプログラムの進行方法には新たな工夫がみられた。講演や発題といった伝達型のプログラムを最小限に切り詰め、相互の状況を分かち合い意見が積み上げられるようなワークシヨップが中心になっていた。それだけに入念な準備があり話し合いのルールの明確化とその順守が参加者にも求められていた。こうしたプログラムの配分とバランス感覚はLWFの長年の経験に由来し、印象深い協議会の一コマでもあった。

もう一つの印象は、それ

だけ多様で入り組んだ状況の観点整理の丁寧さにある。JELCにかぎらず世界各地の教会は、19世紀〜20世紀にかけての欧米からの世界宣教にルーツを持つところが少なくない。そこでアメリカと日本というように二対二で宣教や神学を語る習慣がある。東西冷戦や南北格差というように二つに分けて考える習慣に似ている。他方で、今日の宣教の広がりや相互の結びつきはもはやそれでは汲みつくすことができない

だけ多様で入り組んだ状況の観点整理の丁寧さにある。JELCにかぎらず世界各地の教会は、19世紀〜20世紀にかけての欧米からの世界宣教にルーツを持つところが少なくない。そこでアメリカと日本というように二対二で宣教や神学を語る習慣がある。東西冷戦や南北格差というように二つに分けて考える習慣に似ている。他方で、今日の宣教の広がりや相互の結びつきはもはやそれでは汲みつくすことができない

なるだろうか。

協議会のゴールは2004年に策定された宣教文書の四半世紀ぶりの更新作業であり、さらに次のひと世代を見据えた宣教の方向性を見定めようとしている。その取り組み自体が息の長い宣教とその取り組みの性質を物語っている。今回は「希

望」を主軸にして諸教会が互いを理解し、宣教の励ましとすることを世界各地の教会に呼びかけることになる。JELCもまた150の加盟教会の一つであるため、これが自らの宣教の励みとなることを祈りとしたい。



協議会の様子

第31回総会期第1回常議員会報告

李明生事務局長
(日本福音ルーテルむさしの教会牧師)

6月9日(月)、日本福音ルーテル教会常議員会がオンライン(Zoom)によって開催されました。以下、主な事項について報告いたします。

第31回総会期諸課題の件

報告事項のはじめに永吉秀人総会議長より、議長報告として今期の諸課題について取り上げられました。今後の検討課題として、今後数年以内に教職50名体制となることを踏まえつつ服務規定、教区内の個々の教会の連携のあり方、全体の財務計画における収益

事業の位置づけについての整理、教職給のあり方、教職養成の今後、信徒の働きについて、などが挙げられました。

この議長報告を踏まえて、協議事項において今総会期の諸課題についての意見交換が行われました。

戦後の日本福音ルーテル教会の教勢の推移を振り返りつつ、40年程前には牧師・宣教師合わせて約170名の体制で担われていた事柄を現在では

約3分の1の教職者数で対応していることが再確認されました。また信徒の働きの重要性について、そして宣教の現場である個々の教会を支える全体教会の体制のあり方についての検討が必要となつていくことを共有しました。

過去の日本福音ルーテル教会における収益事業の位置づけについても振り返りがなされました。

今回の常議員会での意見交換を通して出された

事柄は、今後整理され取り上げられていくこととなります。

事務局室長・主事任命の件

前期に引き続き、総務室長・管財室長に滝田浩之牧師、宣教室長に小泉基牧師、広報室長に竹田大地牧師、世界宣教主事に浅野直樹Sr.牧師、加えて今年より世界宣教主事補佐として高村敏浩牧師が選任されました。

次回常議員会日程の件

次回常議員会は、11月10日(月)〜12日(水)、ルーテル市ヶ谷センターにて対面での開催が承認されました。

その他の報告・議事等の詳細につきましては、各教会へ配信されました常議員会議事録にてご確認ください。

2025年度

「日本福音ルーテル教会教師試験」について

2025年度「日本福音ルーテル教会教師試験」を以下要領にて実施いたします。教師志願者は必要書類を整え、教会事務局にご提出くださいますようお願い申し上げます。

記



- ◇提出書類
- ◇教師志願書
- ◇志願理由書

テーマ「なぜ『日本福音ルーテル教会の牧師』を志願するのか」

書式 A4横書き 2枚 フォントサイズ11ポイント

◇履歴書(学歴、職歴、信仰歴、家庭状況等を自筆で記入すること)

◇教籍謄本(所属教会教籍簿の写し)

◇成年被後見人または被保佐人として登記されていないことの証明書

(法務局交付のもの。任用試験時に必要になります)

◇所属教会牧師の推薦書

◇健康診断書(事務局に所定の用紙があります)

◇提出先

日本福音ルーテル教会 総会議長 永吉秀人宛

◇提出期限(期限厳守)

2025年9月12日(金)午後3時までに教会事務局へ提出すること

・個人で神学の研鑽を積み受験を希望する者は、必ず神学教育委員会の推薦を得ること

・国外のルーテル教会の神学機関に学び神学修士を持ち受験する者は、願書提出前に事務局に相談すること

◇試験日及び試験内容

志願者本人に直接連絡します

以上